

研究所日記

食品検査(理化学)担当者研修会

食品検査(理化学)担当者研修会を、保健衛生部で11月27から28日の2日間行いました。研修のテーマは食品添加物のひとつである甘味料(サッカリン、アスパルテーム及びアセスルファムカリウム)検査の実習です。この研修は、県内の保健所の食品検査担当者の技術の向上を目的として、毎年2回開催されています。食品の安全安心を確保するための正確な検査を実施するために、毎年技術の研鑽を重ねてきています。

この研修の受講者にはベテランの方も参加されていて、ちょっとした器具の使用法の工夫、回収率、妨害成分など研修者間での意見交換による技術の向上も図られました。また、同じ業務を行う者同士ということで、検査技術だけでなく検査一般についてもいろいろと意見交換がなされ、有意義な研修会になったのではと思っています。

(宮澤正徳 kanken-hoken@pref.ngano.jp)



甘味料検査の研修

安茂里庁舎でジュニア・インターンシップ

当研究所は学生のジュニア・インターンシップ(職場体験)の受入施設になっており、平成20年10月23日(木)・30日(木)・11月6日(木)の合計3回、長野工業高等学校の生徒さんを受け入れ、その中のお一人に感想を寄稿していただきました。

(企画情報課 kanken@pref.nagano.jp)

「環境保全研究所でジュニアインターンシップを経験して」

長野工業高等学校 工業化学科3年 堀米 諒

私たちが取り組んでいる課題研究のテーマは、「木炭の浄化効果についての研究」で、そのテーマを長野県環境保全研究所においてジュニアインターンシップ(就業体験実習)を実施しました。長野工業高校で製造した木炭が、どれだけ重金属、有機物質を吸着するのか、研究することが目的です。そのため学校にはない機器、ガラス器具を使わせていただき、VOCやICP質量分析による重金属イオンの試験、河川の水、有機廃液のCODの分析をさせていただきました。一回一回の分析が新鮮で、普段使用できない分注器、デジタルビューレット、マイクロピペット、バイアルピン等扱うことが出来ました。分析の基本操作の中には、工業化学科で実習している操作(採取方法・希釈方法等)もあり、自信を持って行うことが出来ました。計算方法や結果から基準値に適合するかどうかの判断について説明を受けとても良く理解できました。課題研究の結果は、吸着前と吸着後では明らかに重金属イオン、有機物が多孔質(ミクロ孔、メソ孔)に閉じこめられることが分かりました。

その他、長野県環境保全研究所には様々な部門があ



CODの分析実習

り、県内の河川・湖沼の水質汚濁、大気汚染、土壌汚染の分析、食品に混入している有害物質(無機・有機)、食中毒の原因である病原体(ウイルス)についての検査等、環境、衛生両面に渡り幅広く調査研究していることがオリエンテーションの説明で良く分かりました。短い期間でしたが、研究所の方の熱心なご指導、本当にありがとうございました。これからの環境社会に貢献できるように活動して行きたいと思います。

報告

外部評価委員会が開催されました

研究所で行っている業務が時代の変化に対応して真に県民や行政のニーズに応えられているか客観的かつ公正に判断するため、外部評価を実施しています。

第3回外部評価委員会が平成20年10月17日（金）13:00～16:30に飯綱庁舎で開催され、調査研究6課題を対象に6名の委員の方々から評価を受けました。

講評では、「全テーマが県民にとって関心がある内容で、社会的な問題、行政的面からも適切である。ただ、県の研究所という性格から県民に計画や結果を分かり易く報告することは第一だが、学術的な報告をすることにも取り組み、全国的にアピールして有効に使えるようにすべきであり、まとまった時点で逐次報告する習慣は研究所としての使命である。」等のご意見をいただきました。

（企画情報課 kanken@pref.nagano.jp）



外部評価委員会

第1、2回の評価結果は
当所ホームページで公開中です。

<http://www.pref.nagano.jp/xseikan/khozen>

報告

長野市環境こども会議に出展しました

11月22日（土）、長野市若里市民文化ホールで開催された「第13回長野市環境こども会議」に出展しました。親子連れや子どもたちなど100名以上の方々にミニカラムによる物質の吸着を利用した科学手品、土壌カラムに汚水を流し窒素・リンを取り除く実験などを体験していただきました。土の意外な働き、また、農地への肥料のまき過ぎなどについて考えるきっかけになればと思いました。

（カラム：物質の分離などに用いる、中につめ物が入っている円筒状の容器）

（企画情報課 kanken@pref.nagano.jp）



土壌カラムの働きを体験

報告

信州大学山岳科学総合研究所と連携協定を結びました

以前から信州大学と環境保全研究所は①地質図作成、②山岳における動植物調査、③地球温暖化などの調査・研究を研究員間で協力して取り組んできました。この度、信州大学からの働きかけにより、平成20年12月4日（木）、信州大学理学部で信州大学山岳科学総合研究所と長野県環境保全研究所間で調査・研究の連携・協力に関する調印式が行われました。

協定の締結により研究員の交流、施設の共同利用やデータの提供などを行いやすくし、これまで以上に信州大学との連携を密にして調査・研究に取り組み、得られた成果で県民の皆様役に役立つ情報を還元できるものと期待しています。

（企画情報課 kanken@pref.nagano.jp）



連携協定調印式

編集後記

- 27号をお届けします。今回の内容はいかがでしたでしょうか。
- 本誌は、研究所の活動や長野県の環境保全及び保健衛生に関する情報をわかりやすく提供することが目的です。お気づきのことがありましたら、お気軽にご連絡ください。（編集担当：企画総務部）

次号の予告

次号は3月に発行予定です。「最近の話題」、「研究所日記」等を掲載予定です。